



小中ふれあい体験学習（高千帆中学校、有帆小学校、高千帆小学校、高泊小学校）

高千帆中学校区の3小学校の6年生が、高千帆中学校を訪れ、中学校の学習や生活についての説明を聞いたり、実際の授業や部活動を参観したりしました。はじめに、中学校の校長先生から、映像もまじえ「生徒が主役の学校」であることの説明を受けました。続いて、生徒会が作成した活動紹介のスライドをじっと見入り、わくわくする行事がたくさんあることやすてきな仲間を見つけてがんばることなどを学びました。児童にとっては、この体験学習を通して中学校生活に対する楽しみや期待を大きく抱く機会になったようです。



学力熟議（厚狭小学校）

厚狭小学校では、学校運営協議会と地域教育協議会が合同で開催した学力に関する熟議に5年生が参加しました。10月に実施された学力定着状況確認問題の結果から見えた課題改善のために、どんな力をつける必要があるか、そのために何をすればよいかなどについて、グループごとに話し合いました。児童は、考えを付箋に書いて説明したり、委員のアドバイスに耳を傾けたりして、熱心に意見を交わしていました。委員が意見を集約する手助けをしたり、児童の意見を励ましたりするなど、中身の濃い熟議になりました。



地域学習（出合小学校）

6年生のほとんどが聞いたことも登ったこともないという校区にある日ノ峰山のことを調べるために、地域ボランティアの講師、見守りの保護者と一緒に登りました。児童がやや急坂な登山道を登って山頂に着くと小さな社があり、講師から航行の安全祈願や信号を送る狼煙や保安林の役目があるなど、歴史的に大切な山であることや出合富士とも呼ばれていること等の説明を聞き、熱心にメモを取ったり写真を撮ったりしていました。地域の自然や歴史、文化財などを知ることは、ふるさとを誇りに思う心を育む第一歩になります。

